

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2671200307
法人名	社会福祉法人 宇治明星園
事業所名	グループホーム ナイスライフいせだ
所在地	京都府宇治市伊勢田町毛語27-1 (電話) 0774-48-3331

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年6月8日	評価確定日	平成21年8月3日

【情報提供票より】(平成 21年 5月 15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13年 7月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 3人, 非常勤 8人, 常勤換算	7人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	3 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	25000円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 1000 円			

(4)利用者の概要(5月 15日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
要介護1	1 名	要介護2	3 名			
要介護3	3 名	要介護4	2 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	81.1 歳	最低	75 歳	最高	89 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	原田内科医院・小杉歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人宇治明星園が運営する当該ホームは、オーナーが地域に根差したグループホームを設立したいとの思いから法人に依頼され、開設されました。閑静な住宅街にあり、2階3階がマンションで1階がホームとなっています。職員は、「ふれあい・ささえあい・おもしろい・かたりあい・ひろげあいの5つのあい」の理念を基に日々のケアに取り組んでいます。オーナーの思いに沿った地域との繋がりを大切に、地域行事に参加するだけでなく、地域と共に消防訓練や認知症学習会などの開催、保育園・小学校との交流も積極的に行われています。また、利用者の個別ケアの取り組みが充実しており、家族や利用者同士の繋がりを大切に地域と共に日々を過ごしています。全職員で何でも話し合いホームを良く変えていくと常に前向きに歩んでいるホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題評価については、入浴について夜間対応を取り入れたり、ケアプランの見直しを状況に応じて出来るように職員で話し合い改善に向けて取り組んでいます。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については、常勤職員に意見を聞きながら、管理者がまとめられました。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者や家族、地域包括支援センター職員、民生委員、消防職員、ボランティアなどが参加する運営推進会議を不定期ですが、開催しています。行事に合わせ多くの方の参加ができるように取り組んでいます。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	伊勢田明星園だよりを行事の写真や職員からのコメントを入れて年に4回発行し、毎月介護経過の報告書を利用者担当者が作成し、家族に送付しています。また、家族の来訪時や運営推進会議、家族会は年に4回開催されており、その内2回は個別懇談会をして、意見や要望を聞く機会を設けています。また、日ごろより言いやすい関係を作りながら希望や要望があれば、すぐに対応できるようにしています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しています。いせだ夏祭りでは、模擬店の出店があったり、学区福祉の食事会では利用者も一緒にお手伝いも兼ねて参加しています。地域の方と消防訓練や認知症学習会を開催したり、保育園や小学校とは、行事に招待され出かけたり、ホームへの来訪があり積極的に交流されています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に根ざした施設づくりという法人の理念があり、それを基に「ふれあい・ささえあい・おもいあい・かたりあい・ひろげあいの5つのあい」を事業所独自の理念としています。開設時に職員と話し合い1つ1つの言葉に意味を考え地域に開かれた施設を目指し作られました。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	リビングに大きくわかりやすく掲示しています。利用者自身が理念の内容を“仲良くやっていけるように”と理解し、来訪者に説明することもあり、誰にも浸透している理念となっています。毎日開催されるサービス会議で、理念に基づいたケアができるように話し合い取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しています。地域の行事や学区福祉行事に利用者も一緒にお誘いを受けるだけでなく、模擬店を出店するなど協力しながら参加しています。地域で消防訓練や認知症の学習会を運営推進会議と兼ねて開催したり、保育園や小中学校の行事に招待され出かけたり、ホームへの来訪もあり積極的に交流しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価票は、常勤職員の意見を基に管理者がまとめられました。改善点について全職員で話し合い、入浴について夜間対応を取り入れたり、ケアプランの見直しについて改善に取り組んでいます。	○	玄関に誰もが見られるように自己評価・外部評価を置いています。職員全員がその内容の理解が十分ではありません。非常勤職員にも自己評価の項目を知ってもらい意見を出し合える機会を作り、全職員で取組まれることを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や家族、地域包括支援センター職員、民生委員、消防職員などが参加する運営推進会議を不定期に開催しています。行事に合わせ、多くの方が参加してもらえるように取り組んでいます。	○	地域の方が多く参加してもらえるように企画を立て開催されていますが、2ヶ月に1度の定期的な開催が望まれます。また、参加された方々の意見や要望、ホームからの状況などを話す機会も検討されてはいかがでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の来訪が毎月あり、報告された内容は市からホームに届くようになっています。また、市からの実施指導が年に1回あったり、必要に応じてグループホームの取り組みについて指導を受けたり、運営について相談しています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「伊勢田明星園だより」を年に4回発行し、写真入りで行事での様子や職員の異動などを知らせています。また、毎月利用者の担当職員が介護経過の報告書を作り送付しており、家族から喜ばれています。金銭管理については、預かり金対応で出納帳とレシートを見てもらい確認サインをもらい、家族会の際にレシート原本と出納帳の写しを渡しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を置いています。家族会を年に4回開催しており、内2回は個別懇談会を設けたり、来訪時にも直接意見や要望を聞いています。日ごろより言いやすい関係を作りながら希望や要望があれば、すぐに対応できるようにしています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者は少なく馴染みの関係が出来ています。職員同士で何でも話し合いを持ち、連携を図り情報の共有をしています。職員が変わる場合は、利用者へのダメージがないかをみながら支援しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の人事考課制度や法人の研修計画を基にホーム独自の研修計画を立て職員の育成に努めています。外部研修については、案内を掲示し参加者を募り参加できるようにしています。参加後は報告書を作成し回覧や伝達研修をしています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム連絡会に加入し参加していますが、交流するには至っていません。法人内のグループホームとは行事や研修などの共催をして交流しています。	○	近隣のグループホームとの繋がりや交流する機会を持ちたいと考えられています。市の担当者の協力や法人の協力を得ながら交流できるように取り組みを検討されてはいかがでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族が何度も見学に来られることもあり、ホームの雰囲気を覚えてもらっています。入居が決まれば、家族にアセスメント表を記入してもらい、生活歴など多くの情報を得ています。また、入院されていた病院へ出向き入居前の状況を聞き、入居後の環境や支援の準備をしています。入居後は、家族の協力も得ながら少しずつ馴染めるように工夫しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員と一緒に生活する中で、コミュニケーションを大切に料理や京都でのしきたりなどを教えてもらい、何でも話し合える関係づくりに努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に家族に記入していただいたアセスメント表やセンター方式の一部を使用しながら、日々利用者とのかわりの中で観察しサインを見逃さず、その時々での思いや意向を把握できるように努めています。また、会議の際には職員で話し合い本人の思いについて検討しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	来訪時や個別家族会で希望や要望を聞きながら、サービス担当者会議で話し合い、一人ひとりに合った介護計画を作成しています。また、医師や在宅生活での介護支援相談員の意見を取り入れたこともあります。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月～6か月を介護計画の期間とし、定期的に見直しをしています。介護記録を参考に、毎日開催しているサービス担当者会議で話し合い、夜勤者からの情報や医師からの指示などを取り入れながら見直しをしています。また、状況に変化があったときには随時見直しをしています。	○	記録しやすい方法を取り入れられていますが、介護計画と介護記録が連動できるように記載の方法を検討され、現状に即しているかが解りやすくなるようにしてははいかがでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族との通院に要望があれば、職員が同行したり、ホームでの様子や状態の報告書を作成しています。その時々希望を聞き植物園や利用者の生まれた所に出かけたり、退院後や体調の悪い時には家族が泊まり食事を一緒にされることもあり、一人ひとりに合わせた支援をしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からのかかりつけ医を継続し、それぞれの主治医との関係作りをしています。2週間に1回、往診に来られる医師とは、電話で相談ができるように連絡が取れる体制を作っています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に「食事が出来なくなった時や常時医療が必要になった時には入居継続が困難」と話をしています。方針は文書として定めていませんが、状況に応じて医師や家族、職員と話し合い個々に合わせた支援をしています。また、在宅での看取りも考慮に入れ、家族と話し合いを密にしています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録は、事務所のロッカーに保管しています。利用者が呼ばれるときには、苗字か名前かどちらがいいかを聞きながらその利用者に応じた言葉かけをしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から睡眠まで利用者のペースや生活リズムを大切にしています。食事はみんなで食べたいとの利用者の希望があり一緒に食べています。声掛けをしながら、利用者の意思や希望に沿った支援をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はその日に決めています。肉と魚を配達してもらい野菜等は利用者と買い物に出かけています。利用者の出来ることに携わってもらい一緒にしています。また、職員は利用者と同じテーブルに付き、同じ食事を食べ自然な流れで声掛けや食事介助をしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回曜日を定め、13:30頃から入浴ができるようにしています。希望があれば毎日シャワー浴をしたり、週に1回程度夜でも入れる様に体制を整え、利用者に合わせて入浴ができるように取り組んでいます。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器拭きや味付け、配膳、洗濯たたみ等の役割や編み物、色塗り、書道などを楽しみとしています。また、日々の散歩やドライブなど利用者の好みに合わせた支援ができるようにしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、外出ができるようにしています。散歩や買い物、ドライブなど利用者の希望に沿って外出ができるようにしています。また、ホーム前の駐車場や庭で野菜やサツマイモを作り様子を見に出ています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム前の駐車場は広く、道路に出れば交通量が多いため安全対策のため鍵は掛けています。利用者は、鍵を開けて出られることもあり、見守りを怠らず出掛けたい様子を感じたら一緒に出掛けています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署立会いの下、地域の方にも参加してもらい避難訓練をしています。昼夜や様々な場面を想定しながら訓練をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事量や水分量は記録していませんが、体調が悪い時や全量摂取していない時には、介護記録に状況を記録しています。また、毎月の体重測定や年に1回の健康診断での血液検査の結果を往診医からアドバイスをもらい、栄養状態を把握しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事をする場所とは別に、リビングは広く明るくテレビを見たりゆっくりと過ごせるように2列にソファが置かれています。ホーム理念や小学生からの手紙、生花、季節ごとの貼り絵などが飾られ、ぬくもりや季節を感じながら過ごせるように工夫しています。ホーム入口には職員の名前と顔が分かりやすく掲示してあります。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとタンスは備えています。利用者と家族が相談しながら、使い慣れた家具や、大切にされている仏壇、その他ぬいぐるみ、写真、お花などを持ってきてもらい、その人らしく居心地よく過ごせるようにしています。また、居室前には利用者の表札や個別に暖簾をかけています。		